

PMP860M/PMP880S/PMP1280S

EUROPOWER

www.behringer.com

取扱説明書



バージョン 1.1 2006 年 11 月



EUROPOWER PMP860M/PMP880S/PMP1280S

安全にお使いいただくために



注意: 感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。製品内部には手を触れず、故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。

警告: 火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。



このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が通じています。手を触れると感電の恐れがあります。



取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

テクニカルデータや製品の的外観は予告なしに変更される場合があります。各社名や出版物、ロゴ等はすべて各所有者の登録商標です。これらの使用は、BEHRINGERによる登録商標の主張も BEHRINGER と登録商標所有者との提携を意味するものでもありません。BEHRINGER 社は、ここに含まれたすべて、もしくは一部の記述、画像および声明を基にお客様が起こした行動によって生じたいかなる損害・不利益等に関して一切の責任を負いません。色およびスペックが製品と微妙に異なる場合があります。製品の販売は、当社の正規代理店のみが行っています。製品のディストリビューター（配給元）およびディーラー（販売業者）は、BEHRINGER の 特約代理店ではなく、これらは明示・暗示を問わずあらゆる行動および表現によって BEHRINGER を拘束する権限を一切有しません。本取扱説明書に記載された情報内容は、BEHRINGER International GmbH からの書面による事前の許諾がない限り、いかなる利用者もこれを複製、使用、変更、送信、頒布、入れ替え、工作することは禁じられています。BEHRINGER® は登録商標です。

ALL RIGHTS RESERVED.

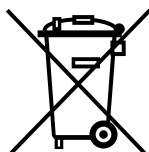
© 2006 BEHRINGER International GmbH.

BEHRINGER International GmbH,

Hanns-Martin-Schleyer-Str. 36-38

47877 Willich-Muenchheide II, Germany,

Tel. +49 2154 9206 0, Fax +49 2154 9206 4903



取扱説明書を通してご覧ください。

取扱説明書を大切に保管してください。

警告に従ってください。

指示に従ってください。

本機を水の近くで使用しないでください。

お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。

本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

二極式プラグおよびアースタイプ（三芯）プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換して下さい。

電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

すべての装置の接地（アース）が確保されていることを確認して下さい。

電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに手に届く場所に設置して下さい。

付属品は本機製造元が指定したのみをお使いください。

ート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるのみをお使いください。カートを使用している際の、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。



雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードまたはプラグが損傷した場合、本機内部に異物や水が入った場合、雨や水分で濡れた場合、本機が正しく作動しない場合、もしくは本機を落下させてしまった場合は、当社指定のサービス技術者に修理をご依頼ください。

注意 - これらの指示は、資格のあるサービス技術者に向けたものです。感電の危険を防ぐため、有資格者以外は、装置の操作方法に記載された内容以外の整備は、行わないようにしてください。

1. 概要

PMP860M/PMP880S/PMP1280Sのお買い上げ、まことにありがとうございます。これは新たなスタンダードを築く最先端のパワーミキサーです。あらゆるアプリケーションに対応できる革新的な装置の開発が当社の当初からの目標でした。その結果、幾多の性能を備え、幅広い接続環境とオプションを提供するこのパワーミキサーが誕生したのです。

このパワーミキサーには、当社の革新的な Coolaudio アンプ回路が内蔵されています。これによって装置の軽量化とコンパクト化が実現し、最大限の出力が可能となりました。

この他にも内蔵されたボイスキャンセラーによって、プレイバックからボーカルパートのみを抽出が可能、FBQ フィードバック検知システムは問題となる周波数を即座に抑制、さらにスピーカープロセッシング機能が各スピーカータイプへの見事な適応を実現します。そしてこれらすべてが 24-bit/40 kHz の高解像で行われるのです。

BEHRINGER は、プロ用のレコーディングスタジオ技術にそのルーツを求める企業です。当社はこれまで長年にわたり、ライブおよびスタジオで使用できる製品の開発に携わってきました。それはマイクや 19 インチ製品 コンプレッサー、エンハンサー、ノイズゲート、チューブプロセッサ、ヘッドフォンアンプ、デジタルエフェクト機器、DI ボックス等)、モニターおよび PA スピーカー、そしてプロ仕様のライブ/スタジオ用レコーディングミキサーなど多岐にわたります。当社のこれまで培ってきた技術的なノウハウのすべてが、この PMP パワーミキサーに詰め込まれているのです。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 出荷

パワーミキサーは運搬に際して細心の注意を払って梱包されています。箱の外側が破損している場合、直ちに装置が破損していないかどうか確認してください。

- ☞ 装置が万が一破損していた場合は、保証請求権が無効となる恐れがありますので当社に直接返送せずに、必ず販売店および運送会社へご連絡ください。
- ☞ パワーミキサーの使用や運搬を安全に行うために、ハードケースの使用をお勧めします。
- ☞ 装置の保管あるいは出荷時は、装置の破損を防ぐために、必ずオリジナルの梱包を使用してください。
- ☞ 装置や梱包箱を子供の手の届かない場所に置いて下さい。
- ☞ 環境を損なわないように梱包材を廃棄してください。

1.1.2 操作開始

装置のオーバーヒートを避けるため、装置は風通しの良い場所で使用し、暖房器具の近くには置かないで下さい。

- ☞ ヒューズのショートを避けるために、必ず正しい値を持ったヒューズを使用してください。正しい値は「テクニカルデータ」の章をご覧ください。
- ☞ ネットワーク接続は常温装置接続を持つネットワークケーブルで行ってください。上記は必要な安全性の保証に関連しています。
- ☞ 全ての装置は必ずアースされていなくてはなりません。安全のために、いかなる場合でも装置のアースまたはネットワークケーブルを取り外したり、無効にしないで下さい。
- ☞ 電波の強い放送局や高周波音源の範囲内では、音質が減退する可能性があります。その場合は、送信機と機器の距離を離し、すべての接続にシールドケーブルを使用してください。

ご注意！

- ☞ 過大な音量は聴覚障害やヘッドフォンおよびスピーカーの故障原因となる恐れがあることにご注意ください。本機に電源を投入する際にはメインマスターおよびメインコントローラーを左端まで回しておいてください。常時、適正な音量維持を心がけてください。

2. 操作部

以下のセクションで、パワーミキサーの全ての機能について詳細に解説されています。広範囲に及ぶ概論を得るために、関連のある付録を番号のついているイラストと共に手に取ってください。

2.1 モノおよびステレオチャンネル

- 1 EQ セクションの HIGH コントローラーは該当チャンネルの高周波数帯域調節用です。
- 2 MID コントローラーで、中音域のブースト/カットが行えます。
- 3 LOW コントローラーは、低音域のブースト/カットを行います。
- 4 MON コントロールは、モニターミックスの各チャンネルの音量を調節します。
- 5 FX コントローラーは各チャンネルから内蔵エフェクトプロセッサに送られた信号のレベルを設定する際に使用します。この信号は FX OUT 端子 ([32] 参照) にも取り込まれます。PMP880S/PMP1280S は 2 つのコントローラー (FX 1 と FX 2) をもつため、2 つのエフェクトを同時に使用することが可能です。したがって、エフェクト AUX パスも二つ備えられています ([32] 参照)。
- ☞ FX RETURN コントローラー ([21]) が半時計回りに絞りにされている場合は、エフェクトプロセッサ信号は聴き取れません。
- 6 PMP880S/PMP1280S は、モノ入力チャンネルに、ステレオメインミックスのチャンネル信号の位置を設定する PAN (ORAMA) コントローラーを備えています。PMP860M はデュアルモノパワーミキサーであるため、入力チャンネルに PAN は備えられていません。
- 7 PMP880S/PMP1280S のステレオチャンネルにある BAL (ANCE) コントローラーは、モノチャンネルの PAN コントローラーに対応しており、左右入力信号がステレオメイン入力にルーティングされる前に両信号の音量を調節します。
- 8 LEVEL コントローラーはメインミックスのチャンネル信号レベルの調節に使用します。

2.1.1 インプットセクション

- 9 CLIP LED は入力ゲインの調節に使用します。これはシグナルピーク時のみに点灯するようにし、常に点灯しないように気をつけて下さい。
- 10 PAD スイッチは、例えばハイレベルなラインレベル信号を接続する際などに、チャンネルの入力感度を約 30 dB ほど下げます。
- 11 バランス型 HI-Z 入力 (6.3mm TRS フォンジャック) はラインレベル信号との接続用です。キーボード、エレキギター、エレキベースなどを接続してください。
- 12 各チャンネルにはバランス型 LOW-Z マイク入力が XLR コネクターとして備えられており、これはコンデンサーマイク用の +48V ファンタム電源の供給も行います ([27]) 。
- 13 これらは PMP880S/PMP1280S のステレオチャンネル 7 から 10 における 6.3 mm TRS フォンジャックで使用可能なアンバランス型ステレオライン入力です。ステレオ出力またはステレオドラムコンピューターを備えたキーボードとの接続に使用します。
- ☞ マイクもしくはライン入力のどちらか一方のみしか使用できませんのでご注意ください。

2.2 エフェクトセクション

- [14] すべてのマルチエフェクトプリセットの一覧がここに表示されます。
- [15] エフェクトプロセッサのLEDレベルメーターです。PMP880S/PMP1280Sでは2つのエフェクトを同時に選択することができますため、レベルメーター（*DUAL FX*）も2つ備えられています。クリップLEDはシグナルピーク時のみに点灯するように気をつけて下さい。常に点灯している場合は、エフェクトプロセッサがオーバーロードしているため、不快な歪みが発生してしまいます。
- [16] 現在選択されているプリセットが、この *EFFECT* ディスプレイ（PMP880S/PMP1280Sには2つ装備）に表示されます。
- [17] *PROGRAM* コントローラーを廻してエフェクトプリセットを選択します（PMP880S/PMP1280SにはFX1とFX2用に1基ずつ装備）。プリセット番号が点滅をはじめます。コントローラーを軽く押ししてプリセットを決定してください。
- [18] *FX IN* ボタン（PMP880S/PMP1280Sの場合は *FX 1 IN* と *FX 2 IN* ボタン）を押すとエフェクトプロセッサが起動します。

2.3 メインとモニター部分

- [19] このパワーミキサーには2つのグラフィック7バンドEQが備えられています。上部のEQはモニター信号を、下部のEQはメイン信号をそれぞれ処理します。
- [20] *FBQ IN* スイッチを押すと、FBQ フィードバック検知システムが起動します。フィードバックを起こす単一周波数もしくは複数の周波数がフェーダーLEDの点灯によって示されます。該当する周波数レンジをフィードバックが抑制されるまで下げると、LEDは消滅します。この機能はメインおよびモニターミックスに対して有効です。
- [21] *FX RET* コントローラーを廻すと、メインミックス（下）またはモニターミックス（上）のどちらかにエフェクト信号を加えることができます。PMP880S/PMP1280Sは、同時に2つのエフェクトを選択できるようになっているので、メインおよびモニターミックス用にそれぞれコントローラー（*FX RET 1* と *FEX RET*）が備えられています。コントローラーを左端に絞りとると、エフェクト信号は加わりません。
- [22] 2 *TR IN* コントローラーは2トラックイン信号の音量を決めます（[35] 参照）。
- [23] *MONITOR MASTER* コントローラーはモニター出力の音量を調節します。
- [24] この5段階LED表示によって、モニター信号の出力レベルをコントロールできます。内部のアンプ保護回路が超過信号に反応すると、上部の *LIM-LED* が点灯します。
- [25] *MAIN MASTER* コントローラーはメイン出力の音量調節時に使用します。
- [26] この5段階LED表示によって、メイン信号の出力レベルをコントロールできます。この信号はステレオであるため、PMP880S/PMP1280SにはステレオLEDメーター（*L/R*）が備えられています。内部のアンプ保護回路が超過信号に反応すると、上部の *LIM-LED* が点灯します。
- [27] +48 V ファンタム電源はコンデンサーマイク用の電力供給を行います。ファンタム電源はすべてのチャンネルに備えられた *PHANTOM* スイッチで動作させます。作動している場合は、スイッチ上部の *PHANTOM LED* が点灯します。
- [28] *POWER AMP* スイッチによって、パワーミキサーの作動モードを決めます。

PMP880S/PMP1280Sは3つの異なる方法で作動します。MAIN L/MAIN Rモードではステレオアンプとして機能し、左右のメインステレオ信号がOUTPUT A (L) およびOUTPUT B (R) にそれぞれ送り込まれます。MON/MONOモードでは、デュアルモノアンプとして機能します。この場合、OUTPUT Aでモニター信号が、そしてOUTPUT B上でメイン信号（モノ）が取り出されます。BRIDGE AMP MODEでは、OUTPUT AとBの出力が付加され、OUTPUT B上のみで出力されます。

基本的にはPMP860Mも3つの作動モードがあります。というのは、これが上のスイッチ位置（MAIN/MAIN BRIDGEモード）においては、使用するスピーカーケーブルのピン構成によって2つの異なる方法で使用できるためです。MAIN（BRIDGE）モードでは、両出力端子の出力が加わり、OUTPUT Bで取り出されます（Speakon ケーブルピン構成 1+/2+）。通常のピン構成（Speakon ケーブルピン構成）では、ブリッジメイン信号はOUTPUT AとBの両方で取り出されます。MON/MAINモードでは、ミキサーをデュアルモノアンプとして使用可能です。つまり、OUTPUT Aがモニター信号を取り出す一方、OUTPUT Bにはメイン信号が送り込まれます。

[44] および [45] さらに第4.4章もあわせてご覧ください。

BRIDGEモードにはOUTPUT B（ピン構成 1+/2+）で最低 8 Ω のインピーダンスを持つラウドスピーカーのみを接続してください。BRIDGEモード（ピン構成 1+/2+）の使用において、絶対にOUTPUT Aを使用しないように注意

全てのその他の作動方法において、接続されたラウドスピーカーのインピーダンスは 4 Ω 以下であってはなりません。

[29] *SPEAKER PROCESSING* スイッチを押すと、フィルターが起動し、スピーカーの仕様にミキサーを適応させることができます。つまり、もしスピーカーの低周波域における周波数レスポンスに限界があれば、ミキサーの出力信号からこの帯域をフィルター通過させ、それによってスピーカーの周波数レスポンスにこれを最適に適応させることができます。

[30] *STANDBY* スイッチを押すと、すべての入力チャンネルがミュートされます。休憩時間中にも、PA設備上に届くマイクの雑音が悪悪の場合、ラウドスピーカーのダイアフラムを破壊してしまう恐れがありますが、このスイッチでそれを防ぐことができます。このスイッチの優れたポイントは、CD/TAPE入力（[35] 参照）を介して音楽をプレイバックしている最中にもすべてのフェーダーに手を触れる必要がない点です。この場合、ミュートされているチャンネルのフェーダーは調節する必要はありません。

2.3.1 接続端子類

[31] この *FOOTSWITCH* コネクタには、市販されている標準的なフットスイッチを接続できます。これによってエフェクトバイパスを起動させることができ、エフェクトプロセッサがミュートになります。PMP880S/PMP1280S用にデュアルフットスイッチを使用すると、FX1とFX2の相互切り替えが可能となります。この場合、6.3 mm ジャックのチップ部がFX1を、リングがFX2をコントロールします。

[32] *FX OUT* コネクタは、入力チャンネルから *FX SEND* 信号を、例えば外部エフェクト機器の入力端子にルートをします。PMP880S/PMP1280Sには各入力信号ごとに2つのエフェクトコントローラーがあるため（[5] 参照）、*FX OUT* コネクタも2つ装備されています（*FX OUT 1* と *FX OUT 2*）。

ご注意ください。モノプラグを *FX OUT* 端子の一つに接続すると、該当する *FX SEND* から内蔵エフェクトプロセッサまでのシグナルパスは遮断されてしまいます。そのため各 *FX SEND* には、内蔵エフェクトもしくは外部エフェクト接続用の *FX OUT* 端子が使用できますが、この2つを同時に使用することはできません。ステレオプラグ（チップとリングは相互連結）を使用すれば、内部エフェクトプロセッサと *FX OUT* 端子を並行に使用することができます。

[33] *AUX IN* 6.3 mm フォンジャック入力端子を使用すれば、例えば事前に *FX OUT* 端子から取り出された外部エフェクトプロセッサ信号などの外部ステレオ信号を、メイン信号に加えることができます。モノ信号を送り込む際は、左側の入力端子を使用してください。ステレオで取り込まれます。PMP860Mには *AUX IN* コネクタは1つしか装備されていません。

[34] *AUX IN* コントローラーはメインミックス中の外部信号の音量調節を行います。

- [35] 2 TR IN 入力端子には CD プレイヤーやテープデッキなどのラインレベルの外部ステレオ信号を接続することができます。
- [36] VOICE CANCELLER は、2TR IN 信号からヴォーカル部分の周波数をカットすることができます。この機能は例えばカラオケに便利で、ヴォーカルパートを消去し、それに合わせて歌う場合などに使います。
- [37] REC OUT 端子は、パワーミキサーのメインオーディオ信号を例えば DAT レコーダーに送り込む際に使用します。PMP880S/PMP1280S では、この REC OUT はステレオ信号を取り扱い、デュアルモノミキサーである PMP860M においては 2 つの同一のモノ信号が処理されます。
- [38] REC OUT 信号がレコーディング装置と接続され、その装置の出力信号が 2TR IN へ戻されている場合、レコーディング開始時にフィードバックが発生することがあります。レコーディングを開始する際は、2TR IN の接続をレコーディング装置から切断してください。
- [38] MAIN 端子を使用してメイン信号を外部アンプへと送り込むことができます。この方法は、ミキサーセクションとエフェクトセクションのみを使用したい場合にお勧めです。信号はミキサーのプリパワー時に取り込まれます。出力端子の左側のジャックのみを使用することも可能です。PMP860M にはモノ出力は 1 つしか装備されていません。
- [39] モニターパワーアンプもしくはアクティブモニタースピーカーをこのモノ MONITOR 出力に接続してください。MON コントローラーで生成されたミックス信号がモニターできます。この信号をステージ上のミュージシャンにルートをすることも可能です。
- [40] POWER スイッチで装置を起動させます。装置を主電源に接続する際は、このスイッチが常に「オフ」になっていることをご確認ください。
- [41] ご注意ください: POWER を切断しても電源を完全に切ったことにはなりません。長期間装置を使用しない場合は、コンセントを抜いて主電源から装置を完全に切断して下さい。

2.4 リアパネル

- [41] 主電源との接続には付属の標準 IEC ケーブルを使用してください。
- [42] ヒューズホルダー。装置を電源に接続する前に、本機器の電圧表示が供給電圧と同じであることを確認してください。ヒューズ交換の際には、必ず同じタイプのもを使用してください。詳しい値は「テクニカルデータ」章をご覧ください。
- [43] スピーカー出力 OUTPUT A です。

PMP880S/PMP1280S : 選択した操作モード([28] 参照)によって、左メイン信号またはモニター信号のどちらかがここに取り出されます。ブリッジモードの際は、絶対にこの出力端子を使用しないで下さい。

PMP860M : MON/MAIN モードでは、モニター信号がここに取り出されます([28] 参照)。この出力端子はブリッジモードにおいては絶対に使用しないで下さい。ただし、通常のピン構成がなされたケーブル(SPEAKON ケーブル、ピン構成 1+/1-)を使用する場合は例外となります。この場合は、MAIN/MAIN (BRIDGE) モードにおいて出力端子からモノメイン信号を取り出すことができます(ブリッジはさせないで下さい)。第 4.4 章 スピーカー接続もあわせてご覧ください。

- [44] 接続されているラウドスピーカーのインピーダンスは 4Ω より少なくははいけません。
- [45] ブリッジモノモードにおいてスピーカーに送られる出力は、他のモード時に比べて非常に高くなっています。パワーミキサーのリアパネルに記載された値にご注意ください。

- [44] スピーカー出力 OUTPUT B のです。

PMP880S/PMP1280S: 選択した操作モードによって([28] 参照)、右メイン信号、モノメイン信号、もしくはブリッジモノ信号がここに取り出されます。

PMP860M : メイン信号またはブリッジメインモノ信号がここに取り出されます([28] 参照)。通常のピン構成がなされたケーブル(Speakon ケーブル、ピン構成 1+/1-)を使用する場合は、MAIN/MAIN (BRIDGE) モードにおいてモノメイン信号をここから取り出すことができます(ブリッジはさせないで下さい)。第 4.4 章 スピーカー接続もあわせてご覧ください。

- [46] BRIDGE モードでは、最低 8 Ω のインピーダンスを持つスピーカー 1 台のみを OUTPUT B (ピン構成 1+/2+) に接続してください。BRIDGE モード (ピン構成 1+/2+) の際は、絶対に OUTPUT A は使用しないで下さい!
- [47] その他の操作モードでは、4 Ω 以上のインピーダンスを持つスピーカーのみを接続してください。
- [48] 正しいスピーカー接続に関しては装置の背面部に記載されています(ピン構成)。
- [49] シリアルナンバー。

3. デジタルエフェクトプロセッサ

24-BIT 多重効果プロセッサ

この挿入された作用モードにより高品質の標準作用を提出し、例えば、反響、合唱、テープ位相校正、エコーと様々な組み合わせる役割です。FX コントローラーを使って、信号をエフェクトプロセッサに送り込むことが出来ます。内蔵エフェクトモジュールの長所は、ケーブル接続が不要な点です。そのため、グラウンドループや不定の信号レベルに悩まされる必要は一切ありません。各チャンネルや Aux センド 2 マスターコントローラー内の Aux センド 2 を使用しエフェクトプロセッサへ信号を送ることができます。このデジタル・ステレオ・エフェクトプロセッサは内蔵型となっており、結線の必要がありません。このため、ハムノイズやレベル相違などの問題を防ぎ、操作が大変楽になります。

このエフェクトプリセットは、ドライ信号に加えるためのものです。FX RET コントローラーを廻すと、ドライなチャンネル信号とエフェクト信号がミックスされます。

- [49] 処理したくない全ての信号用にチャンネル動向において FX 増幅器を回してください。

4. 設置

4.1 ネットワーク接続

ヒューズの交換に際しては、必ず同じタイプのもを使用してください。

電源接続は標準 IEC ケーブルで行ってください。このケーブルは必要な安全基準を満たしています。

- [50] すべての機器が確実にアースされている事をご確認下さい。安全のため、機器や電源コードのアースを取り除いたり使用不能にしないで下さい。

4.2 オーディオ接続

BEHRINGER EUROPOWER ミキサーの入出力端子は、バランス型 6.3 mm コネクターとなっているモノライン入力部を除き、すべてアンバランス型 6.3 mm モノラルフォンジャック仕様となっています。すべての入出力端子もバランス型およびアンバランス型コネクターとして使用することができます。テープイン/アウトはステレオピンプラグ仕様となっています。

- [51] 機器の組み立てと設置は専門家にお任せ下さい。静電気放電により作動特性が影響を受ける事がありますので、組み立て中とその後には取扱者が静電していない様、常にご注意下さい。

EUROPOWER PMP860M/PMP880S/PMP1280S

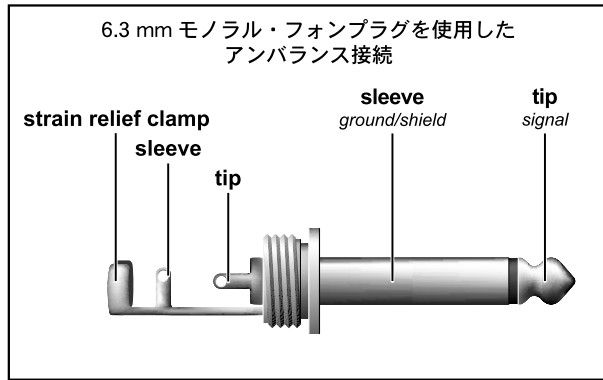
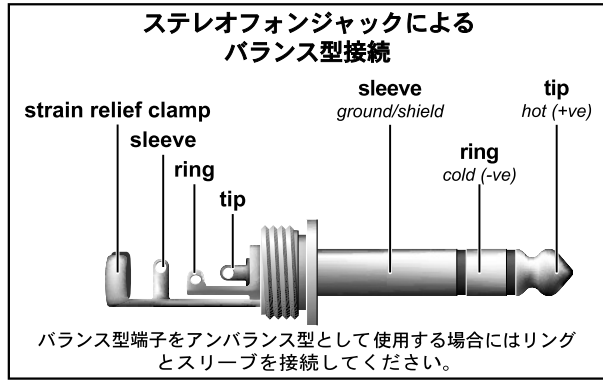
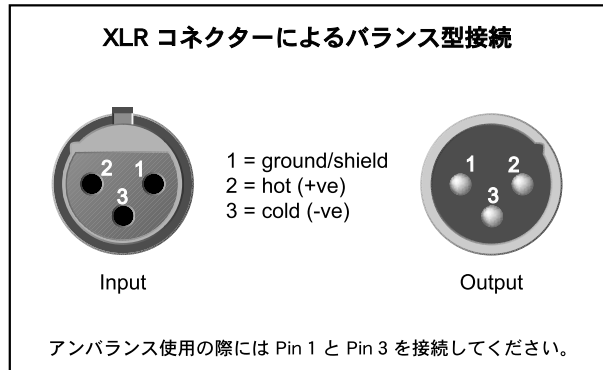


図 4.1: 6.3mm TS モノラルフォンジャック



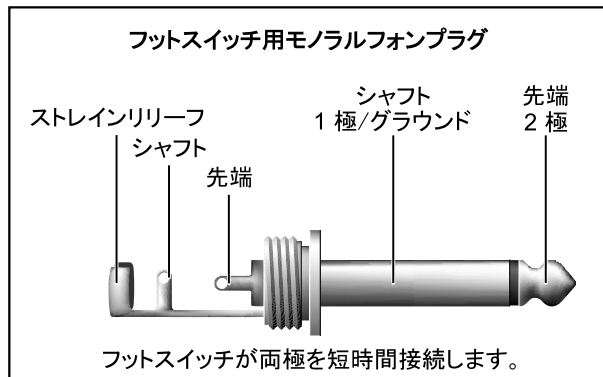
バランス型端子をアンバランス型として使用する場合にはリングとスリーブを接続してください。

図 4.2: 6.3mm TRS ステレオフォンジャック



アンバランス使用の際には Pin 1 と Pin 3 を接続してください。

図 4.3: XLR コネクター



フットスイッチが両極を短時間接続します。

図 4.4: フットスイッチ用 TS モノラルフォンジャック

🔊 PMP880S/PMP1280S 用にデュアルフットスイッチを使用すると、FX1 と FX2 の相互切り替えが可能となります。この場合、6.3 mm ジャックのチップ部が FX1 を、リングが FX2 をコントロールします。

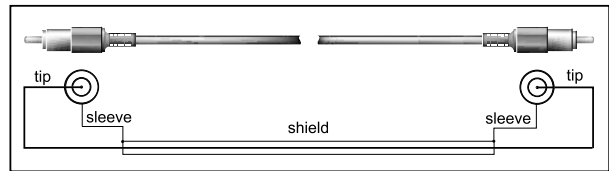


図 4.5: ピンプラグ

4.3 ラウドスピーカー接続

EUROPOWERミキサーには、高品質の Neutrik/Speakon 対応コネクターが備えられています。Speakonプラグはより高い機能を持ったラウドスピーカー用に特別に開発されました。依存する端子に差し込まれ、これに鍵がかけられ、うっかりと失われることはありません。電気ショックから守り、正極が保証されます。各 Neutrik/Speakon 対応コネクターは表示されたひとつの信号のみを導きます(表4.1/図 4.7及び装置の裏面に書かれている太字を参照)。

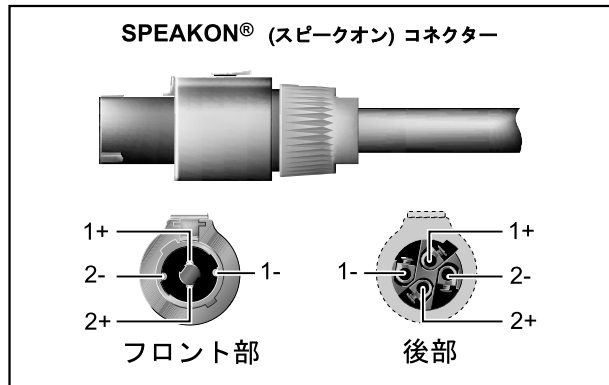


図 4.6: プロフェッショナルコネクター

ラウドスピーカーを EUROPOWER ミキサーに接続するために、商習慣上の Speakon ケーブルのみを使用してください。使用する装置のラウドスピーカーアウトレットに依存するラウドスピーカーボックスとケーブルのピン敷き詰めを確認してください。

EUROPOWER PMP880S/PMP1280S				
OUTPUT A	1+	1-	2+	2-
MAIN L	POS	NEG	-	-
MON	POS	NEG	-	-
OUTPUT B	-	-	POS	NEG
OUTPUT B	1+	1-	2+	2-
MAIN R	POS	NEG	-	-
MONO	POS	NEG	-	-
BRIDGE	POS	-	NEG	-

EUROPOWER PMP860M				
OUTPUT A	1+	1-	2+	2-
MAIN MONO	POS	NEG	-	-
MON	POS	NEG	-	-
BRIDGE	-	-	-	-
OUTPUT B	1+	1-	2+	2-
MAIN MONO	POS	NEG	-	-
MAIN	POS	NEG	-	-
BRIDGE	POS	-	NEG	-

表 4.1: ラウドスピーカー接続のピン敷き詰め

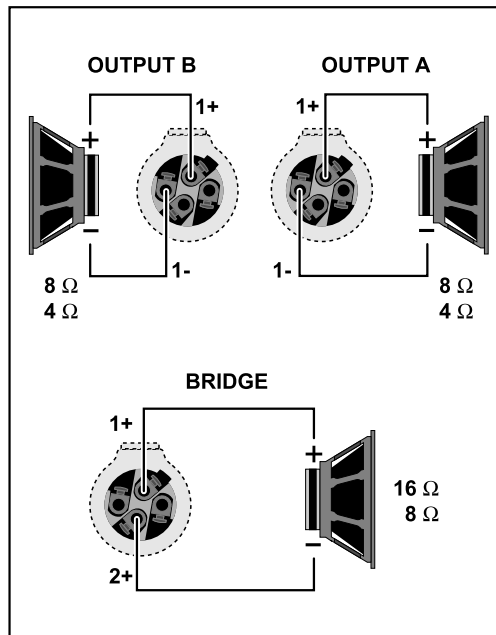


図 4.7: Speakonプラグピン敷き詰め

5. 接続例

以下の使用例においては、PMP880S/PMP1280S の POWER AMP スイッチは上部の位置 (MAIN L/MAIN R) に設定してください。出力端子 A と B はステレオメイン信号を PA スピーカーに送り込みます。パラレル接続された 2 台のアクティブスピーカーは、プリアンプモニター出力に接続されます。これらはステージ上のモニタースピーカーとして使用することができます。エフェクターの切り替えは、デュアルアウトスイッチで行います。この接続例は PMP860M では再現できませんのでご注意ください (ステレオ使用は不可能となっています)。

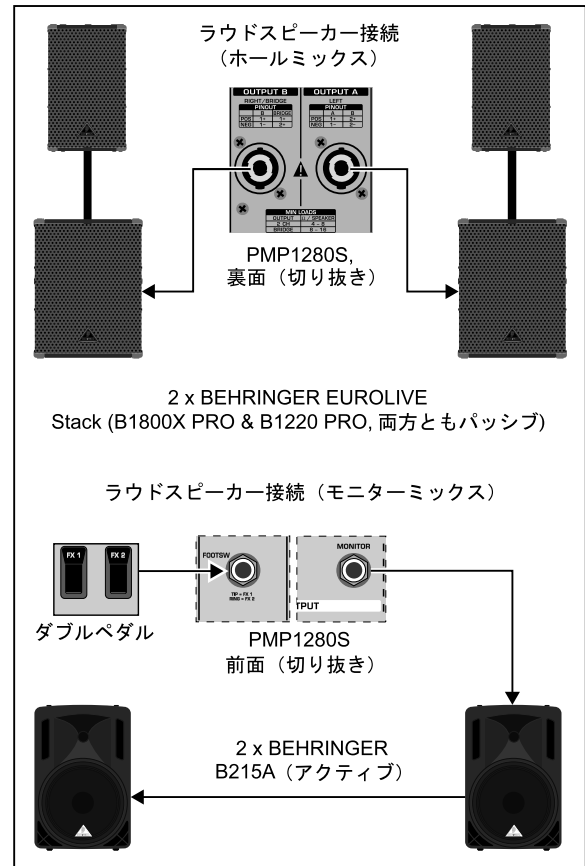


図 5.1: ステレオアンプとしての EUROPOWER (例)

EUROPOWER PMP860M/PMP880S/PMP1280S

以下の例は PMP860M および PMP880S/PMP1280S のどちらによっても再現できる接続例です。POWER AMP スイッチは [28] 下の位置 (PMP860M の場合) または真中の位置 (PMP880S/PMP1280S) に設定してください。2 つの Neutrik/Speakon 対応コネクターではメイン信号およびモニター信号が独立して取り出され、パラレル接続されている 2 台のスピーカーにそれぞれ送り込まれます。

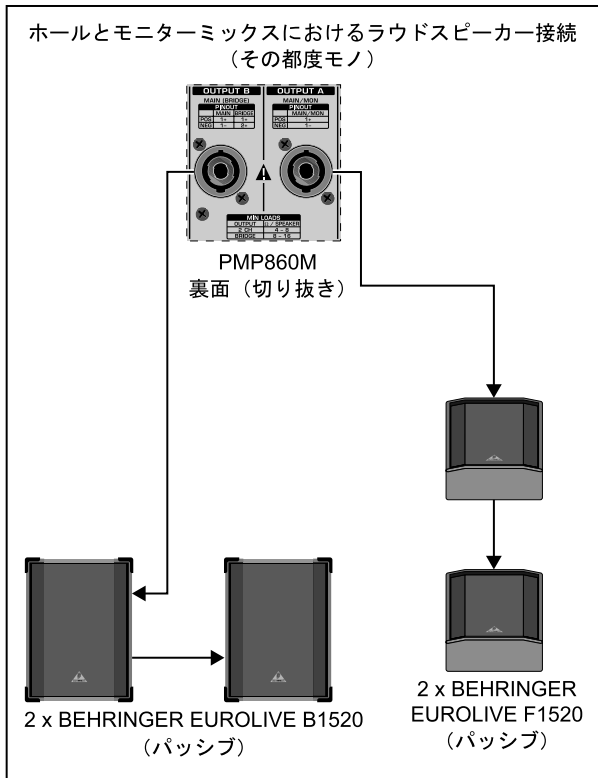


図 5.2: デュアルモノアンプとしての EUROPOWER (例)

次の図はパワーミキサーのチャンネルの使用例を示しています。ミックス信号のレコーディングや外部信号のプレイバックに対応するモノ/ステレオ信号とテープイン/アウトの接続法が示されています。

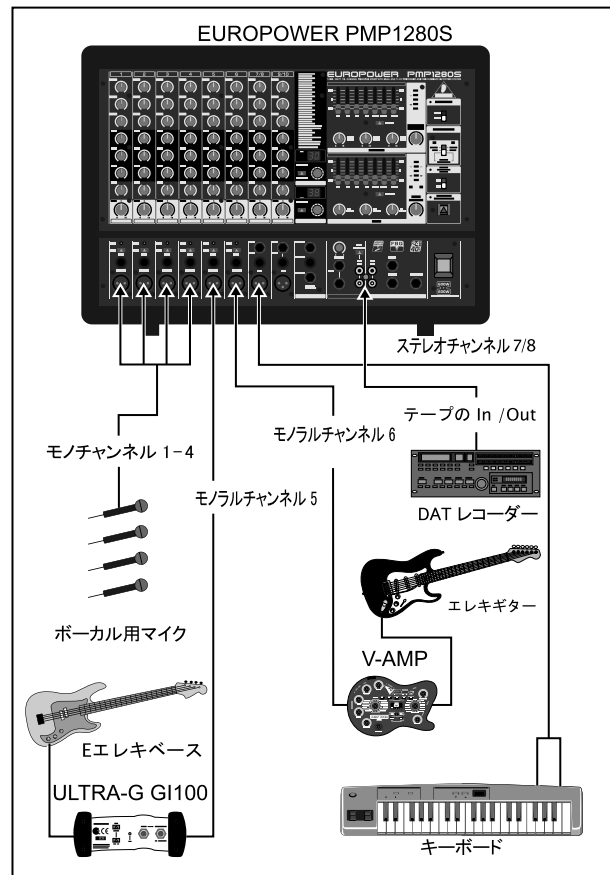


図 5.3: 標準的セットアップ例

EUROPOWER PMP860M/PMP880S/PMP1280S

最後に、ブリッジモノモードでの PMP の使用例です。この図では、PMP1280S の OUTPUT B にサブウーハーが接続されています。ステレオメイン PA 信号用の独立ステレオパワーアンプ (BEHRINGER EUROPOWER EP1500) が、プリアンプメイン出力端子に接続されています。プリアンプモニター出力は、ステージ用のアクティブスピーカーに接続されます。この使用例は PMP860M でも再現できますが、メイン PA 信号がモノ信号である点は異なります。

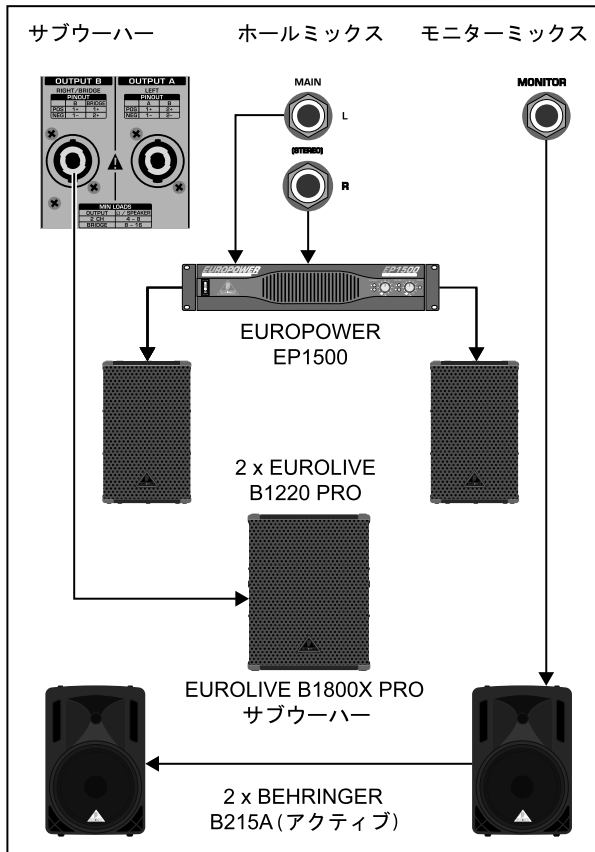


図 5.4 : ブリッジモノモードにおける EUROPOWER

J

6. テクニカルデータ

	PMP860M	PMP880S	PMP1280S
マイク導入部			
タイプ	XLR, 電子バランス型で非連続スイッチ		
Mic E.I.N.(20Hz-20kHz)			
@ 0 Ohm 供給源抵抗器}	-112 dB/114 dB A 数値決定		
@ 50 Ohm 供給源抵抗器}	-112 dB/114 dB A 数値決定		
@ 150 Ohm 供給源抵抗器}	-112 dB/114 dB A 数値決定		
周波数の動き	< 10 Hz-100 kHz (-1dB)		
	< 10 Hz->200 kHz (-3 dB)		
増幅範囲	+30 dB, パッドを持つ+10 dB		
最大導入レベル	+12 dBu @ +10 dB Gain		
インピーダンス	約 2.2 kOhm バランス型 / 1.1 Ohm アンバランス型		
ノイズ状態	110 dB/114 dB A数値決定 (0 dBu In @ +10 dB Gain)		
歪み (THD+N)	0.001%/0.0007% A-数値決定		
モノライン導入部			
タイプ	6.3 mm のモノジャックソケット、アンバランス型		
インピーダンス	約 20 kOhm、対称的		
最大導入レベル	+21 dBu		
ステレオライン導入部			
タイプ	-	6.3 mm のステレオジャックソケット、アンバランス型	
インピーダンス	-	約100 kOhm、アンバランス型	
最大導入レベル	-	+21 dBu	
イコライザー			
Low	80 Hz / +/-15 dB		
Mid	2.5 kHz / +/-15 dB		
High	12 kHz / +/-15 dB		
2 TR IN 導入部			
タイプ	RCA		
インピーダンス	約10 kOhm、バランス型		
プリアンプアウトレット			
メイン			
タイプ	6.3 mm のステレオジャックソケット、アンバランス型		
インピーダンス	約150 Ohm 非対称的		
最大アウトレットレベル	+21 dBu		
モニター			
タイプ	6.3 mm のステレオジャックソケット、非対称的		
インピーダンス	約150 Ohm 非対称的		
最大アウトレットレベル	+21 dBu		
ステレオアウトレット			
タイプ	-	6.3 mm のステレオジャックソケット、非対称的	
インピーダンス	-	約150 Ohm, 非対称的	
最大アウトレットレベル	-	+21 dBu	
タイプ	Cinch (RCA)	Cinch (RCA)	
インピーダンス	約 1 kOhm	約 1 kOhm	
最大アウトレットレベル	+21 dBu	+21 dBu	

EUROPOWER PMP860M/PMP880S/PMP1280S

	PMP860M	PMP880S	PMP1280S
メインミックスシステムデータ			
ノイズ			
メインミックス@ -∞	-102 dB/-106 dB A 数値決定		
チャンネルフェーダー -∞			
メインミックス@ 0 dB	-88 dB/-91 dB A 数値決定		
チャンネルフェーダー -∞			
メインミックス@ 0 dB	-84 dB/-86 dB A 数値決定		
チャンネルフェーダー@ 0 dB			
ラウドスピーカーアウトレット			
タイプ	Neutrik Speakon 対応コネクタ		
最終インピーダンス			
メイン L/R	-	4 - 8 Ohm	
MONITOR/MAIN MONO	4 - 8 Ohm		
MAIN MONO/MAIN MONO	4 - 8 Ohm		
ブリッジ	8 - 16 Ohm		
DSP			
変成器	24ビットデルタシグマ、64/128面オーバーサンプリング		
ダイナミックD/A	90 dB		
サンプラー	40 kHz		
ディレイ時間	max. 5 s		
信号アップ時間 (Line In > Line Out)	約 1.5 ms		
ディスプレイ			
タイプ	二桁の7セグメント表示	2 x 二桁の7セグメント表示	
出力			
両チャンネル使用時の RMS @ 1% THD (サイン波) :			
各チャンネルごとに 8 Ohm	165 W	165 W	215 W
各チャンネルごとに 4 Ohm	250 W	250 W	450 W
ブリッジモードにおける RMS @ 1% THD (サイン波) :			
8 Ohm	500 W	500 W	900 W
両チャンネル使用時のピークレベル			
各チャンネルごとに 8 Ohm	225 W	225 W	300 W
各チャンネルごとに 4 Ohm	350 W	350 W	600 W
ブリッジモードにおけるピークレベル			
8 Ohm	800 W	800 W	1200 W
電力供給 (EU, A)			
ネットワーク電圧	230 V~, 50 Hz		
ヒューズ	T 6.3 A H 250 V		
電力供給 (China, Korea)			
ネットワーク電圧	220 V~, 50 Hz		
ヒューズ	T 6.3 A H 250 V		
電力供給 (UL)			
ネットワーク電圧	120 V~, 60 Hz		
ヒューズ	T 10 A H 250 V		
電力供給 (J)			
ネットワーク電圧	100 V~, 50/60 Hz		
ヒューズ	T 10 A H 250 V		
録音機能			
録音機能	1000 W		
ネットワーク接続	標準常温装置の接続		
寸法/重量			
寸法(長さ x 幅 x 高さ)	315 mm x 460 mm x 220 mm		
重量	8.5 kg	9.4 kg	10.6 kg

BEHRINGER 社は最高品質基準を保証するために努力しています。予告なしに仕様を変更する場合があります。技術データ及び装置の予想図はそれぞれの申告或いはイラストによって相違する場合があります。